

つながりの中でくらす
望まれた人として生きる
自分らしく生きていく



No. 64

2020年4月発行

春がきた ～ 障害をもつ子どもの高校進学 ～



障害をもつ子どもの中学卒業後の進路は、支援学校だけではなく、知的障がい生徒自立支援コース（以下、自立支援コース）、共生推進教室（在籍は支援学校）、エンパワメントスクール、専修学校、そして、公立高校や私立高校への進学など、様々あります。

当法人の運営している放課後等デイサービスに来ている高校生も、公立高校、私立高校、自立支援コース、支援学校と様々な学校に通っています。この春は3名の生徒が、自立支援コース、公立高校、支援学校へ、それぞれ進路を決めました。進路は障害の重さで決まるわけではありません。本人と家族の意志、家庭の状況や子どもの特性などにより、選択や決定が行われ、受験の場合は合格を勝ち取る必要があります。重度の心身障害をもつ私の娘は、一般受検にチャレンジし公立高校に入学して卒業しましたが、親による送迎や医療的ケアの対応など、たくさんの課題を解決しなければなりませんでした。

当法人の放課後等デイサービスに通っているK君。小学生の頃は、よく泣いたり大声を出したり座り込んだりして、「頑張る」ことや「やり過ごす」ことがなかなかできない子どもでした。中学進学の時、お母さんはとても迷っておられましたが、地域の中学校への進学を選択されました。K君と出会ってから6年。相変わらず独り言は言い続け、いろんなものを並べて眺めています。でも、パニック状態になると自ら場所を変えてクールダウンはできるし、場面の切り替えもできるようになり、グループ活動にも参加しています。お姉さんが高校生になった時から、「僕も高校生になる」と言い続けていました。中学3年生になった時、お母さんと高校への進路を話し合いました。お母さんは「普通の子もたちと同じように、楽しい高校生活を送ってほしい」とおっしゃいました。

K君は自立支援コースへの受検をしました。見事、合格！小学生の時から徒歩での送迎をして、自立での下校を目指してきましたが、中学卒業前には一人で登下校ができるようになり、コンビニでお昼ご飯が買えるようにもなりました。本当に成長しました。「カッコイイ」人が彼の目標です。この春休みには、高校への通学の練習をしました。

K君は、「高校に行って、大学生になります」と言っています。彼のいい笑顔からは、輝いている未来が感じられます。どの子どもも笑顔で将来の夢を描くことができるようにと願っています。

（地域生活サポートネットほうぶ 向井裕子）

子育て支援事業（障害をもつ子どもの保護者向け研修会）

発達が気になる子どもの理解と支援

～ 作業療法・感覚統合の視点から ～

日 時：2020年1月28日（火）10：00～12：00

会 場：楽童ほうぷ

参加者：16名（保護者、保育士、教員、障害者福祉関係職員、地域住民）

講 師：嶋谷和之氏（奈良県総合リハビリテーションセンター）

作業療法士の嶋谷先生をお招きして、研修会を開催しました。「子どもは遊びを通して発達をしていく。子どもが『好きだ・やりたい』と、主体的・能動的に行動していくことが大切」とおっしゃいました。楽童ほうぷでは、いろんな遊びを通して、子どもの「やりたい」気持ちを引き出すような関わりを意識してきましたが、今後も「チャレンジしたい、面白い」と思えるような気持ちを育てていきたいです。コミュニケーションのこと、行動や姿勢のことなど、作業療法の視点から、具体的な事例を交えてわかりやすくお話していただきました。最後に、参加者からの質問タイムをもちました。保護者から、「絵カードの活用がうまくいかない」「じっとできない・集中が続かない」「エジソン箸はうまく使えるが、普通の箸が使えない」「外でトイレに行けない」など、いろんな悩みが出され、それに対して、丁寧にお話をしてくださいました。

<参加者の感想から（抜粋）>

- ・先生のお話がとてもわかりやすく相談にもきちんと答えていただけてよかったです。
- ・気づかされるのが、たくさんありました。しっかりと理解して、感度を上げた観察をして子どもと関わろうと思います。
- ・子どもの気持ちの気づきかたがわかりました。
- ・OTの先生の立場からのお話がなかなか聞けないので、よい機会でした。ありがとうございます。日々に活かしたいと思います。
- ・なかなか聞く機会がないので、またこのような会があれば誘ってください。
- ・子どもへの関わり方を考えられた時間になりました。ありがとうございます。
- ・初めて研修会に参加させてもらって、一つひとつの物事でもいろいろな過程があってそれを組み合わせてできるということを知りました。これから、子どもと関わっていく中で、どうすれば伝わりやすいのか、保育所の先生方や、こういう機会に情報交流ができればいいと思います。
- ・嶋谷先生のお話されていた内容はとてもわかりやすく、聞いていて想像できる場面が多かったです。保護者の方の悩みなども聞くことができ勉強になりました。ありがとうございます。



子育て支援事業（支援者向け研修会の開催）

自己肯定感の根っこを育てる

～地域の大人にできること～

日 時：2020年2月4日（火）10：00～12：00

会 場：旭区在宅サービスセンター 多目的室

後 援：大阪市旭区役所 大阪市旭区社会福祉協議会

参加者：19名（児童福祉関係職員・障害者福祉関係職員）

講 師：伊藤嘉余子氏（大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類 教授）



皆さんの周りには、過剰に大人の気を引こうとしたり、急に攻撃的な言動をとったりする子どもがいませんか？ 大人の目から見て「気になる」これらの行動には、子どもの自己肯定感の低さが関係しているかもしれません。さまざまな事情から、安心感を得られにくい、不安を高めやすいといった課題を抱えている子どももいます。

子どもたちが、自分が大切にされていると実感しながら育つことができる地域をつくるためにはどのようにしたら良いのか、社会的養護における実践経験をお持ちで、子どもの福祉について研究を続けておられる伊藤嘉余子先生のお話を伺いました。

＜参加者の感想から（抜粋）＞ とても良かった 18名 よかった 1名

- ・ 子育ての中の根っこの部分がうまくいかない、大きくなって、修正（？って言い方はよくないですが）することが難しいと思い込んでいましたが、先生の、あったことは認めて、そこをふまえて、今後に向けて考えるというお話が、子育てのアドバイスをする中で参考になりました。
- ・ 心の発達スキップできないもので、積み重ねていくものだと知り、その子に合った課題を、私たちが理解してかかわっていきます。普段から、ストレングス探し、リフレーミングで言葉を合わせる練習します。今日はありがとうございます。
- ・ これまで経験してきたことを再認識できる内容であり、新しく、こうしてみたいという考えが出てきました。
- ・ ライフサイクルの話も聞いて具体的でわかりやすかったです。第三の居場所になるようがんばります。
- ・ 今、現在来ている子や、自分の子育てを考えながら、振り返りながら話を聞かせていただきました。早速、現場で確かめてみたいことも多く、自己肯定感の認知、認識が良くわかりました。人間関係ができたからこそ出来ることをしていきたいと思います。
- ・ 放課後デイにも出来ることがたくさんあると自信になりました。話を聞きながら、子どもたちの顔も浮かびました。ボキャブラリーの少ない子どもたちの気持ちを掘り下げる、置き換える話がとてもステキでした。ありがとうございました。
- ・ かける「ことば」ひとつでも、とても大切。リフレーミングを、スピーディーに出来るように、と思います。現場でどんどん活用してみます。



放課後等デイサービス「楽童ほうぷ」報告

この春に「楽童ほうぷ」を卒業していく高校生を対象とした「ワタシ×ミライワークショップ」を2月と3月に開催しました。学校の先生、卒後に通う施設の職員、計画相談事業所の相談員も来てくださり、将来に向けての計画づくりができました。また、中学に進む子どもの保護者と話し合いを重ね、サポートブックを作成し、中学校への橋渡しをしました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、3月の清水フェスティバルが中止になり、音楽活動を行ってくれる大学生さんたちの活動も自粛、和んで座談会も中止になり、いろんなイベントがなくなってしまいました。

衣

3月に清水フェスティバルが開催される予定だったので、久しぶりに七宝焼きをしました。イヤリング、ネックレス、ブローチなどステキな作品ができました。販売の機会が無くなったのは残念ですが、今年度、どこかでバザーをしたいと思います。

食

お菓子作りを放課後に毎週のように行いました。チョコバナナにバレンタインにはチョコバナナ、サツマイモにはまって、サツマイモドーナツ、サツマイモぱん、ポテトのマシュマロ焼き、BBQコンロで焼き芋もしました。クッキングは、節分の巻き寿司、ひなまつりのちらし寿司と吸い物に始まり、3月からは学校がお休みになり、連日、クッキングをしました。卒業間近の高校生は、「作ってみたい料理」をどんどん作っていました。世界地図が好きな子は、世界各国の料理を調べて、イタリア料理のアマトリチャーナやロシア料理のミネストローネなどを作りました。ピザやいつもはお母さんが作ってくれるロールキャベツにもチャレンジする子どももいました。

遊

3月は、連日、公園遊びもしました。3月末に予定していた鶴見緑地公園への遠足が雨になってしまったので、室内レクリエーションをしました。ボランティアを半数にもらった上でレク係とおやつ作り係に分けて密集しないようにし、マスクを着用してもらいました。南北の掃き出し窓を開け放して、クイズ大会と南北2チームに分かれての輪投げ大会をしました。おやつ作りは、サツマイモ入りアップルパイと炊飯器を使って作った抹茶ケーキ。台所とプレイルームに分かれていただきました。

学

2月には節分の創作として、牛乳パックで立体的なおニのお面を作りました。3月には春を感じる創作として、『春』から連想する色を選んでスタンプアートを楽しみました。東日本大震災発生から9年の3月11日には、水害ハザードマップを見ながら防災クイズをしました。クイズ形式にしたので、子どもたちは関心を持って参加してくれました。避難経路の確認もしました。別の日には、ライフラインが止まった時の災害時クッキングも行い、ご飯や缶詰を使った煮物を湯煎で作ってみました。また、防災をテーマにした「和んで座談会」が中止になったので、次年度から取り組むトーキングサークルの試行として、「避難する時、あなたなら、何を持って逃げる？」をテーマとして、『つつこみNGで静かに聞こう』、『パスあり』という簡単なルールで、ぬいぐるみを回しながら、ぬいぐるみを

もった子どもが順に話をしていきました。ゲーム、携帯、充電式ラジオ、コミックなど、生命維持に必要なモノだけではなく、個人的に思い入れのある大切なモノが多く出ました。

来年度から、また新たな取り組みをするために、大阪人間科学大学の郭理恵氏をお招きして研修会も開催しました。常勤スタッフが、修復的対話とトーキングサークルについて学びました。子どもたちが自他を尊重するコミュニケーションを体験的に学ぶとともに、楽童ほうぶという場そのものが対話(言語だけにとられない対話)の文化に支えられたコミュニティとして成熟していけるようなプログラムを考案し、取り組んでいきたいと考えています。今後、子どもたちと共に試行錯誤をしていきたいと思います。

関係機関や地域との連携では、ワタシ×ミライワークショップのほかにも、学校訪問をして子どものようすを教えていただいたり、計画相談事業所の相談員や区役所の職員と情報を共有したりしました。また、ご近所の方から、3月の清水フェスティバルに向けてのバザー用品をたくさんいただいたり、コロナ感染症拡大の問題が出てきてからは手作りのマスクをいただいたりしました。地域の方々に支えられていることを幸せに思います。

3月は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、学校は休みになり、一時、小学校のいきいき教室も休みになり、放課後等デイサービスへの負荷が大きくなりました。楽童ほうぶでは、常勤の児童指導員3人とアルバイトという体制を取っているので、すぐに長期休みの開所時間で対応しました。子どももスタッフも、手洗いや消毒をしっかりと行いました。南北の掃き出し窓を開けて換気を行っています。常勤スタッフ全員が、食品衛生責任者の資格を取っているので、感染症対策に配慮しながら、クッキングやおやつ作りは中止することなく行いました。メニュー決めは子どもたちの話し合いですが、加熱したものだけにして、配膳と配席にも気をつけました。調理をする子どもの人数を減らし、買い物・調理・片付けと、役割分担をしました。マスクが苦手な子どもは、ガーゼで手作りマスクを作ったら、調理中に着けることができました。子どもたちのストレスを解消するためにも、雨の日以外は公園遊びに行きました。

卒業していく高校生たちが連日やってきて、小さな子どもたちと一緒に遊んでくれました。鶴見緑地公園に卒業遠足にも行きました。お別れ会で、卒業アルバムとメッセージカードを渡しました。卒業生からは色紙の寄せ書きのサプライズプレゼントがありました。バイトの学生さんも2名卒業していきました。お礼のお菓子をいただきました。ほうぶは、みんなの居場所でありたいと思います。みんな、いつでも帰っておいで！

食





「楽童ほうぷ」から学んだ放課後等デイサービスのあり方

私は昨年、大学院で「放課後等デイサービスの障害のある子どもの学校卒業後（18歳）を見据えた取り組み」についての研究をしました。私が論文のテーマを上記にした理由は、放課後等デイサービスの制度が実施されて以降、多くの事業所ができたものの、中には「経営を重視したサービス」をしている放課後等デイサービスがあるようで、子どもたちにとって大切な主体的に過ごせる放課後時間が薄れているのではないかと感じたからでした。

では、障害のある子どもたちに大切な放課後のあり方とはどのようなものでしょう。それは、信頼できる大人たちがいて、ありのままの『自分』でいられるという安心感のある環境と、子どもたちが仲間と共にのびのびと育ち合う中で『自分』を発揮でき、将来、主体的に生活をして行きたいと感じていけるような刺激や活動があることではないでしょうか。

私の研究では、人間関係を生み出す一歩が、子どもたち一人一人の気持ちを聴いていくところから始まるのではないかと結論になったのですが、その結論を導き出して下さったのは、「楽童ほうぷ」と福岡県にある放課後等デイサービスでした。この二ヶ所の放課後等デイサービスに共通していたことは、子どもが気持ちを出しやすい状況を作られていたことと、ボランティア大学生たちとの交流に力を入れておられたということでした。

「楽童ほうぷ」では、日常の時間だけでなく『こどもILP』という生活力に繋がる取り組みや『ワタシ×ミライ ワークショップ』という進路支援等の取り組みもあり、子ども自身が「どうありたいか？」を考える良い時間が用意されていました。中には障害の特性で積極的に発言できない子もいますが、それでも回数を重ねるうちに何をやっているのかが見えてきて、自らやってみたいことを膨らませていくという成長があるようでした。

また、子どもたちにとって大学生たちは憧れの存在で、その行動や服装一つにおいても「真似してみたい」などの意欲を掻き立てられる効果があり、それ以外にも、大学生の色々

な側面を見ることで、子どもたちは自身の心の幅を広げているということでした。

障害があってもなくても、楽しく生活をしている人たちがいます。そういった人に共通して言えることは、自分の「好きなこと」や「やってみたいこと」を、他者に伝えて受容してもらえた経験や実際にチャレンジした経験があるということだと思います。

「楽童ほうぶ」には、その経験が積めるチャンスと、子どもたちの主体性を大切にするスタッフの温かな視点が沢山ありました。

神戸大学大学院 人間発達環境学研究科卒 谷川幸枝



● 地域活動報告 ●

- 1月 7日(火) 旭区和んで座談会の準備会
- 1月14日(火) 清水子育て支援ボランティアグループ定例会
- 1月15日(水) 旭区地域自立支援協議会定例会
清水地域活動協議会清水フェスティバル運営委員会
- 2月19日(水) 旭区事業所連絡会(児童)定例会
旭区地域自立支援協議会相談部会相談支援事業説明会
清水地域活動協議会清水フェスティバル運営委員会
- 2月27日(水) 旭区和んで座談会の準備会
- 3月 9日(月) 旭区小学校校長会において旭区自立支援協議会こども部会主催「就学進学なんでも相談会」についての協力依頼

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、清水フェスティバル、あさひの輪、旭区自立支援協議会本会及びこども部会、旭子育て安心ネットワーク会議、和んで座談会、「ブックスタート」などが中止となりました。

ココロがすっきり 晴れてきた。



いっしょに育てる いっしょに育つ
NPO 法人地域生活サポートネットほうぶ 子育て支援事業

こども相談ほうぶ
〒535-0021 大阪市旭区清水 2-16-22
ご連絡は **06-6953-2665**

旭区地域自立支援協議会こども部会では、2016年から「就学進学なんでも相談会」を開催してきました。初年度は旭区内の4中学校で開催、2年目から10小学校で開催し、現在は10小学校に加えて、旭区役所でも開催しています。相談の大半は小学校への入学ですが、中学校への進学、中学卒業後の進路についての相談もあります。保護者の方々の応援ができればと取り組んでいます。今年度も開催予定ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校が休校になり、開催が危ぶまれます。

このような時こそ、「こども相談ほうぶ」を活用してもらえればと思っています。リーフレットを作成しました。

薬局の棚から、アルコール手指洗浄液や薄手ゴム手袋やペーパータオルなどが消えてしまいました。重度の障害をもち医療的ケアの必要な私の娘にとって、常備の必要な消耗品で、とても困っています。楽童ほうぶでも感染予防のために必要な消耗品の購入が困難になりました。上記のものが一般の家庭で大量に消費されるとは考えにくいことです。不安感から買いだめをしている方々が多くあるのかもしれませんが、状況が状況だけに不安感にかられるのは仕方のないことかもしれませんが、なんだか複雑な思いです。

このような時だからこそ、皆で思いやり協力し合って乗り切っていきたいものです。



4月7日に新型コロナの感染拡大に伴う緊急事態宣言が出たため、楽童ほうぶでは、クッキングやおやつ作りをやめ、イベントを中止しました。保護者に協力をお願いの手紙を出し、ご家庭で過ごせるお子さんはご家庭で過ごしていただいています。

保護者の仕事等で、日々、4、5人のお子さんが来所しています（定員は10人）。感染症対策をしながら、午前中は宿題をし、午後は雨でない限り公園遊びをして、生活リズムを崩さないよう、子どもたちが楽しく過ごせるように工夫しながら対応しています。

メールアドレスが変わりました

編集・発行：NPO 法人 地域生活サポートネットほうぶ
〒535-0021 大阪市旭区清水 2-16-22
Tel 06-6953-2665 Fax 06-6953-2655
e-mail houpu@r.river.sannet.ne.jp
<http://www.page.sannet.ne.jp/hmukai/houpu/>

郵便振替：00900-1-203638

加入者名：特定非営利活動法人 地域生活サポートネットほうぶ